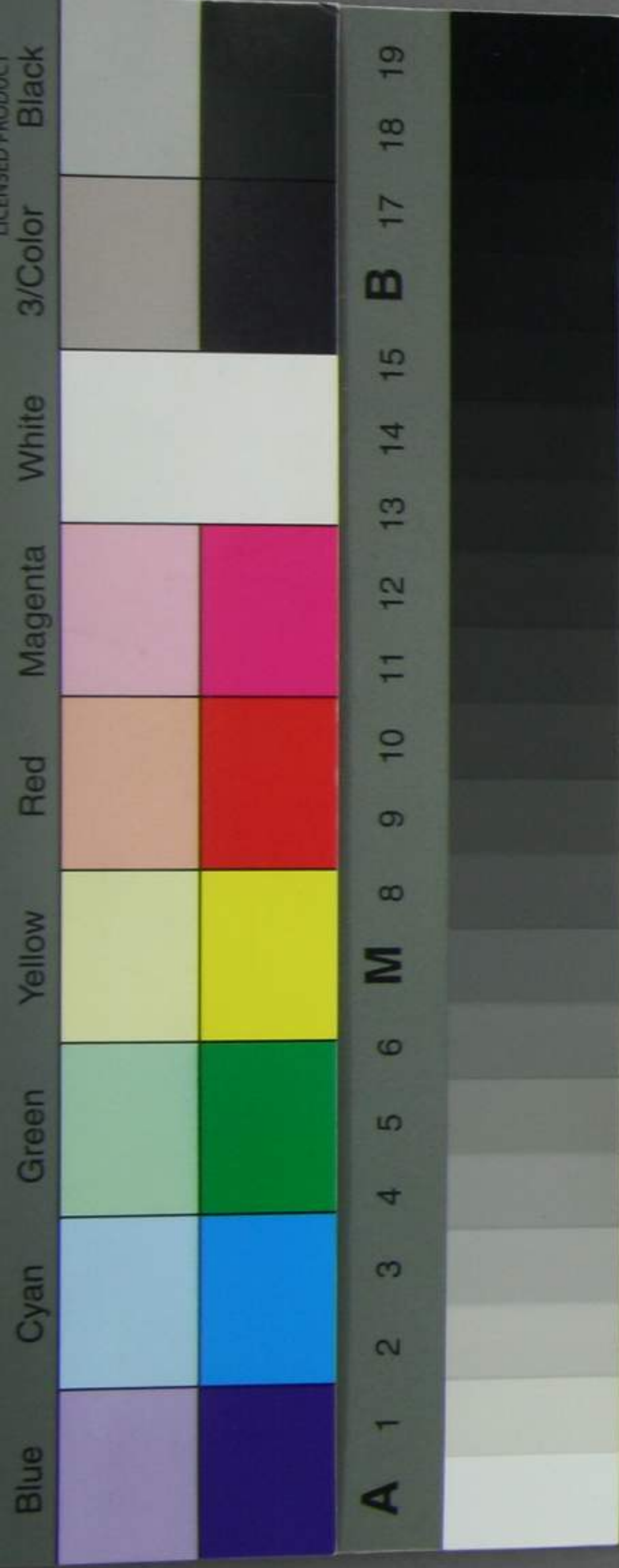


114
A5052

臣貞陽

謹テ惟ルニ國家ニ君臨スル者孰カ其
治ヲ好ミ其亂ヲ惡マサル者アラン然リ而シテ
古今治亂ノ變皆其勢アリ能ク其勢ヲ察
シ之ニ應スル者ハ興リ且ツ治ル之ニ反スル者ハ
亂レ且ツ亡フ苟モ其勢ヲ審ニセスレテ妄リニ
治安ヲ求ムル決シテ得ヘカラサルナリ勢ナル者
何ソヤ曰ク天下人心歸嚮スル所ノ者是ナリ
蓋シ衆心歸向スル所即チ時運ノ然ラシムル
所ニシテ之ニ應セサルヲ得サル所以ナリ臣伏シ

A695



テ今日ノ形勢ヲ察スルニ 朝廷ノ大議
廟論ノ在ル所ヲ知ル能ハスト虽モ大使歸
朝以來參議以下要路ノ諸官累々職ヲ
辭スルヲ見テ謂ラク内外事務千緒萬端
其之ヲ施ス緩急マリ而シテ各負其指向一
ラサルヲ以テ 朝廷別ニ之ニ處スルノ道マリ其
辭スルヲ尚ハサル可シト又兵員邏卒等絡繹
鄉ニ歸ルニ及テ再ヒ謂ラク如此ンハ他日必ス
黨興ヲ分チ異同ヲ論シ彼是衝激止ムナク
或ハ 國家ノ大患ヲ釀スニ至ラント言未タ了

ラサルニ果シテ兵營ノ火アリ暗傷ノ舉アリ是
ニ於テ人心恟々復タ兵革ノ變アラシムル頃
日竊カニ伺ク六師ヲ戡シ某々ニ縣不敬ノ
徒ヲ征スルノ議ヲ獻スル者アリト臣未タ之ヲ
信セス何ントナレハ嚮キノ藩カヲ頼ミ暴威ヲ
假リ其志ヲ逞フスル者ノ如キニ非ス又敢テ私
欲ヲ狹ミ 朝廷ヲ敵視スル者ニ非ス唯其主
張スル所ノ說ヲ以テ 國家ニ盡カセント欲スル
ニ過スト虽モ皆今日ノ 廟議ニ服セサル者ニシ
テ其不敬ノ罪尙ハサル可カラズ律ニ正條アリ

法ニ明例アリ之ヲ司法省ニ委シテ可ナリ而シテ彼其罪ニ伏セス恣睢暴行アルニ至テ然ル後之ヲ討スル亦晚シトナサス 朝廷何ソ獨リ此輕舉ヲ用ユルノ理アラシヤ然ルト雖モ寬猛其宜ヲ得スンハアル可カラス今日ノ弊之ヲ置ケハ益暴之ヲ禁スレハ益激ス激スレハ怨ミ怨メハ則其黨ヲ募リ其根ヲ堅フセンヲ謀ルヘシ顧フニ天下ノ士族糊口ニ苦ミ方向ニ惑ハサル者少シ且ツ頑愚ノ農高舊ヲ恣ヒ新ヲ厭フ者亦少シト爲サス一旦之ヲ煽動スルニ至テハ其禍將サニ測ルヘカ

ラサラントス蓋シ今日ノ事固ヨリ尋常處分ノ能スヘキニ非ス必ス非常ノ英斷ヲ用テ以テ之ヲ處セサル可カラズ宜シク人心ノ歸嚮スル所ニ導キ其積鬱ノ銳氣ヲ驅テ之ヲ朝鮮ニ洩サシメハ必ス内國ノ紛擾ヲ紓フスヘシ而シテ朝鮮ノ事亦輕舉スヘキニ非ス然リト雖モ之ヲ内禍ニ比スレハ其輕重固ヨリ辨ヲ待タサルナリ故ニ速ニ朝鮮處分ノ内旨ヲ下シ嚮キニ此論ヲ主張スル者ヲ以テ之カ將校タラシメハ彼ニ縣ノ徒皆欣々然 國家ノ爲ニ身命ヲ顧ミス成功ヲ奏スル

ニ至ラン是乃チ内禍ヲ轉シ外寇ヲ制スル者ニ
シテ其勢ヲ審ニシ之ニ應スル所以ナリ且ツ此
舉必ス兵士ヲ每縣ニ徵スヘクシテ之ヲ一方ニ
偏スヘカラス若シ之ヲ一方ニ徵シ單ニ其力ニ
頼ルトキハ他日復必ス今日ノ如キ者アラントス
是實ニ國家ノ大事臣日夜憂苦寢食ヲ
安ンセサル所ナリ苟モ要路ノ諸官唯其前論
ヲ主張シ全國ノ形勢ヲ察セス強テ彼徒ヲ抑
壓セント欲セハ獨リ其變測ル可ラサルノミナラ
ス或ハ前議ヲ以護シ私意ヲ達スルヲ求メ却テ

國家ノ興廢ニ関セサル者ニ近カラントス臣
ノ至ニ堪ヘス敢テ謹テ妄意ヲ獻ス伏テ請フ
朝廷幸ニ賢議ヲ盡シ裁酌ヲ賜ヒヨ臣貞陽
誠恐誠懼頓首再拜

明治七年一月二十日

開拓使五等出仕西村貞陽

太政大臣三條實美殿
右大臣岩倉具視殿

